令和6年度　地域連携コンソーシアム委員名簿

NO.	氏　名	所属・役職	備　　考
1	ふじい　よしひろ 藤井　慶博	秋田大学大学院教育学研究科　教授	
2	やまぐち　かなえ 山口　香苗	秋田大学教育文化学部　専任講師	欠席
3	なら　かつひさ 奈良　克久	NPO法人障がい者自立生活センター ほっと大仙　理事長	
4	たなか　つとむ 田中　　勉	秋田県手をつなぐ育成会　会長	
5	やまぐち　みほ 山口　美穂	秋田県特別支援学校PTA連合会　会長	
6	ささき　みつお 佐々木光雄	秋田県障害者スポーツ協会　会長	
7	かのこざわ ゆうすけ 鹿子澤佑介	社会福祉法人 秋田県身体障害者福祉協会 総務企画課 主任	
8	さいとう　まさかず 斎藤　雅和	社会福祉法人秋田育明会竹生寮 相談支援専門員	
9	かんばら　おとこ 神原　音子	ウェルビューいずみ就業・生活支援センター センター長	欠席
10	きむら　ともこ 木村　智子	横手市教育委員会　生涯学習課　課長 （障害者の生涯学習担当：専門員　藤原慶喜）	随行：藤原 専門員
11	かぶとや　みつる 甲谷　　暢	県健康福祉部障害福祉課　課長 代理：櫻田陽悦 副主幹	代理出席
12	くまがい　つかさ 熊谷　　司	県教育庁特別支援教育課　課長 代理：阿部圭但 指導主事	代理出席
13	いまい　おさむ 今井　　理	視覚支援学校　進路指導主事	
14	いとう　たけひと 伊藤　健人	聴覚支援学校　進路指導主事	
15	しぶや　しんじ 渋谷　真二	栗田支援学校　進路指導主事	

事務局：秋田県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進チーム

NO.	氏　名	役　　職	備　　考
1	ふるや　ももか 古屋　桃香	課長	
2	ささき　やすお 佐々木泰生	チームリーダー	
3	たぐち　けい 田口　　圭	主任社会教育主事（兼）サブリーダー	
4	ささき　ゆたか 佐々木　豊	社会教育主事	
5	きくち　とも 菊地　　智	社会教育主事	
6	みうら　ともき 三浦　智己	社会教育主事	
7	くどう　たかし 工藤　　孝	社会教育アドバイザー	

第１回地域連携コンソーシアム（記録）

日時：令和６年６月26日（水）
午後１時～午後３時
場所：秋田県生涯学習センター
４階　第１研修室

	記録
	１　開会 ２　県教育庁生涯学習課長あいさつ ３　地域連携コンソーシアムについて （１）設置要綱 （２）委員の委嘱 （３）自己紹介 （４）委員長、副委員長 ４　説明・報告（30分） （１）事業説明「障害者の生涯学習支援モデル事業」 ・生涯学習課 社会教育・読書推進チーム ・生涯学習センター 学習事業チーム （２）意見交換、質疑応答（45分） ・「共に学び生きる共生社会コンファレンス」秋田大会の実施内容を中心に
藤井委員長	教育庁生涯学習課社会教育・読書推進チームの事業説明を中心に御意見や御質問はないか。
斎藤委員	「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会が、12月26日木曜日に開催予定で、障害当事者の方にも参加を呼び掛けると説明があった。学校は冬休みに入っているかもしれないが、一般就労されている方や福祉的就労されている方は、仕事の時期だと思うので、土日の方がよいのではないか。
藤井委員長	特別支援学校は冬休みのため、参加しやすいようだ。 会場参集となってるが、会場はどこか。
三浦	会場は、秋田県生涯学習センターを予定している。
鹿子澤委員	私たちが受託している『心いきいき芸術文化祭』も障害者の方々が参加するイベントである。12月だと身体障害の方は、凍結した路面などを考えると厳しい。 日程が決まってるのであれば仕方ないが、雪の降らない時期の方がよいと思う。
古屋課長	今、御指摘いただいた部分は、県としても御意見をいただきたいところである。 日程調整は難しいが、できるだけ多くの立場の皆さんに、参加いただくということであると、オンラインでのリアルタイム配信やオンデマンド配信も考えたい。リアルで意見交換とか、空気を共有するということも重要だと思うが、いろいろな方にチャンネルを開くという意味では、そうしたカバーができればと思う。
藤井委員長	対面に加えて、オンラインの併用を御提案いただいた。 それでは、今から日程調整は難しいという事情もあるので、原案の日程で進めていくこととし、オンライン等を使いながら、できるだけ多くの方に参加していただくような開催方法について、検討していきたい。

	続いて、コンファレンスの内容について御提案や御意見をいただきたい。また、皆さまの所属先などの様々な資源とかノウハウを活用して、ぜひ、コンファレンスの中で取り上げたい、取り上げていただきたいというようなものがあれば、それも含めて話をいただきたい。 私は、秋田大学で南米民族音楽サークルＬａ－ｍｉａ（ラミーア）というサークルの顧問をやっている。せっかくの機会なので、そうした学生さんたちの音楽に対する披露の場と障害のある方々の生涯学習を結び付けられないかと思い、代表の学生にコンファレンスで披露することについて提案した。学生も「面白そうですね」と、前向きに検討している。普段、接することのない楽器とか民族衣装に実際に触れたり、演奏したりする等の機会になればと考えている。 先日の土曜日、秋田市内の『小又の里』という障害者施設で、そのサークルの演奏を実際にしてきたが、約40人の利用者の方と約５名の職員の方が一生懸命聴いてくれた。１時間という時間があっという間に過ぎ、来年度も「ぜひ、来てほしい」と依頼されてきた。学生の意欲も向上して帰ってきたというようなことがあった。 皆さまの方からも、このようなお考えや提案があればお願いしたい。
藤井委員長	特別支援教育課長さんの代理ではあるが、阿部さんは昨年度まで事業にかなり関わってきていると思うので、全国的にコンファレンスの内容についてこんなことやってるとか少し紹介していただければ、話が広がっていくと思う。
阿部代理	全国的にコンファレンスは、十数カ所で例年行っている。どちらかというと、土日開催が多い。研究成果の普及を関係者に留めず、一般の県民等に発信する趣旨で、土日開催が多くなっていた。秋田県は、いろいろな意図があって毎年平日開催だったと思うが、もし検討の余地があるのであれば、土日開催も検討いただければと思った。 内容については、いろいろな人に見ていただきたいということであれば、ある程度お名前の通った方を呼ぶ方法もあると思う。障害者の生涯学習を担当している文科省では『スペシャルサポート大使』という制度があり、昨年までいろんなところで使われていた。スペシャルサポート大使の金沢翔子さんとは、何回か御一緒したが、すごくパワフルな方でお母様の講演と一緒に依頼してもよいのではないか。 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校でも、障害者の生涯学習に関する取組をたくさんやられていて、夏のセミナーを秋田大学でやることになっている。その中でいろんな展示ブースも計画されているようだ。県内の障害者の生涯学習に取り組まれている各団体をポスター発表で展示するような企画もされていたので、再委託先団体と連携できればよいのではないか。 また、毎年行われている文科大臣表彰に秋田県から推薦があり、毎年１団体から２団体、受賞されているので、その団体をせっかくですので、紹介または発表していただく機会があっても盛り上がるのではないか。
三浦	開催日について補足説明します。いろいろ検討して土日も考えたが、コンファレンスを進める重要な視点として市町村職員の方々にも参加していただきたいと考えた。もちろん、障害当事者の方々の視点というのも大事であることは前提に置いて、その運営側に回るであろう方々にも参加しやすい配慮が必要だと考える。市町村職員等は、議会対応等を考慮していかないと、参加のタイミングが難しい場合もあるので、この時期の平日に設定したという経緯がある。いただいた御意見を参考にしながら、まずはこの開催日で行いたい。そうした中で、充実した会を開いていきたい。 先ほどの御意見から、表彰を受けた団体から体験講座を開いたり、発表したりするなどが考えられるとヒントを得られた。 今年度は、皆さんの所属先等の資源を活用しながらコンファレンスを作り上げていき

	たい。 　所属する先で障害のある方がいらっしゃると思うので、コンファレンスに参加していただけるような御協力をいただければと思う。
藤井委員長	皆さんの所属先で「こんなことをやっている」「地域でこんな取組をしている方がいる」という情報でも結構です。
木村委員	今、お話を伺って、ようやくコンファレンスのことが分かってきた。初めて、耳にしたところがあるので、今回が初めての大会なのかと思って聞いていた。内容のこととか、参集者も市町村職員や障害当事者ということで、横手市としてどのような立ち位置でどういうところに呼び掛けをして、コンファレンスに参加したらいいのかというところが不明だった。が、横手市としても、障害者の方でも、誰でも参加できるような講座を地区交流センターというところで、講座として行っている。そういった方々にもぜひ参加してもらって、どういった形で進めることができるのかという視点でヒントを得られるということが分かった。
藤井委員長	横手市さんの話をすると、地区交流センターに障害者スポーツ協会さんが、講座をやっていると伺ったことがある。そうした活動を生かして、披露していただくなどあってもいいと思った。
佐々木委員	今年度からパラスポーツ福祉学習とし、全県の小中学校から依頼があれば協会の職員が出向いて学習会を開いている。総合的な学習の時間の中で、車椅子バスケット選手に来て頂いて、当事者の話を聞いたり、実際に一緒にプレーしてもらったりなどしている。 　横手市さんの方でも、依頼があり、プレゼン資料を使ったり、実際に体験したりする学習会を開いた。 　体験を交えて障害理解につながる基本的なこと、健常者も障害者もない共生社会につながることについて教えている。
藤井委員長	今回のパラリンピックには、秋田県出身の選手の出場はあるか？
佐々木委員	陸上の400mの選手、若い水泳選手が育成から強化選手になっている。次のアメリカのパラリンピックには、出場できるかもしれない。 　今回の大会には、秋田県からの出場者がいない。ただし、把握していない県の出身者はいるかもしれない。
藤井委員長	オリパラの開催年ということもあるので、スポーツという一つの切り口があってもよいと、話を伺って思った。
奈良委員	コンファレンスの開催は、12月ということで、配慮してもらいたいとすれば除雪をよくやってもらいたい。車椅子だと、ほんの少しの雪でも動けなくなり、無理に動くと、ひっくり返る。ぜひ、除雪だけはお願いしたい。 　参集してもらうのも、なかなか大変である。いろいろなイベントについて、私の事業所では、できるだけ参加する。利用者も興味あるようなので、商工会議所の祭りの離れ玉作り体験、一般向けの講座、農業科学館のバラフェスタなど、教育委員会以外の学習の機会にも参加している。 　いろいろなイベントに参加していくというのが大事だと思って紹介した。
斎藤委員	私は、相談支援事業所の相談支援専門員をやっているが、相談支援専門員という名称

	になる前から障害のある方の地域生活支援を担当していた。その中で、26年前から余暇支援を行ってきたが、厚労省管轄でいうと余暇支援で、文科省管轄でいうと生涯学習というのかなと理解している。 　事務局の資料にもあったが、すべてが生涯学習というような意味合いの中で、余暇支援も生涯学習だと捉えているが、年に３、４回マイクロバスでの外出を、ボランティアさんを活用して、障害当事者15、６人と一緒に外出するという行事をやってきた。 　それとは別に、藤井先生からいただいたこのカラーのチラシだが、裏側の１番上にある「音楽でつながろう」という講座に、竹生寮の利用者さんが昨年から参加している。毎週火曜日開催だが、オンラインでいろいろと音楽を聞いたり、双方向でいろいろとやり取りがあったりするが、入所している皆さん、楽しみに参加している。 　この講座も、平日開催だったり、土曜日開催だったりするが、平日開催の部分に関しては、障害福祉サービス事業所の方でも生活介護とか就労系の事業所の方でも、オンライン講座等を活用できると感じたので、そうしたところに案内を出してもいいのではないかと思った。土曜日開催に関しては、グループホームの利用者さんがオンラインで繋げて楽しむという参加の仕方も一つの方法と考えた。
藤井委員長	私や田中委員が所属している秋田障害者の生涯学習推進コンソーシアムという別の組織だが、そちらで取り組んでいるものが紹介のあった生涯学習講座である。 　私どもでやっているのは、障害福祉サービスを利用している方々を中心にしている。その方々が自宅に帰ってから一人で生涯学習をやるということは、若干ハードルが高いと思っているので、障害福祉サービス事業所をサテライト代わりにして配信をしていく一つの生涯学習の形の提案である。 　従来であれば対面の方がいいと思うが、なかなか対面で時間が取れない方もいると思うので、そうした方々の補完というような意味で ICT を使って、障害者施設をサテライト代わりにしながらやってみようと思った。障害のある方と一言で言っても、そのニーズや生活スタイルは多様なので、個に応じて自分で取捨選択し、学んでほしいと思って行っている。 　今日、皆さまに御案内した講座を少しのぞいてみたいと思った方は、二次元コードから申し込んでいただくと、その講座の１週間ぐらい前に、Zoom の ID とパスコードをお送りするので、御活用いただきたい。
田中委員	いろいろな団体や組織で障害者の生涯学習をやっている。例えば身体障害者福祉協会がやっている「心いきいき芸術文化祭」、障害者スポーツの方でも、男子バスケットが全国で優勝したり、「チャレンジドスポーツあきた」という団体も立ち上がったりするなどしている。ただ、そういうことを知らない部分、知ってる人が少ない、そういうところがまだまだある。そのようなポータルとは言わないが、どこかを見ると、すぐわかる例えば藤井先生がやってるような事業も、どこかのページを開くとその情報が分かるというようになればよい。今 ICT で障害者や施設の方でも、つながれるようになってるので、そういうことをみんなに知ってもらうということが必要である。 　講座も12月のコンファレンスの時には、ほとんどが終わっていて、良い成果が出てると思うので、ぜひ紹介していただきたい。また、秋田県もいろいろな芸術家とか文化とか、そういう取組を一生懸命やっているところがあるので、ぜひそういうところも紹介していただきたい。
鹿子澤委員	資料の４ページに、県内特別支援学校の卒業生は毎年200名程度とある。卒業後について、休日は自宅で過ごす方が多いということだが、今、当事者団体の方が高齢化で若い人が入ってこない。当事者団体でも、文化活動は結構やっている。創作活動とか、そういうのは行かないのかなと気になっており、若い人が入ってくる場、身体障害者、視覚

	障害者、聴覚障害者の当事者団体でも歓迎するので、一つの進路として考えていただきたい。進路というより、所属先として考えてもらいたい。
渋谷委員	近年の特別支援学校の現状としては、比較的軽度の障害と重度の障害の二極化にあり、中間層が少なくなってきている。その中で、例えば水泳などのスポーツクラブ等に在学中から所属し、卒業後も継続して所属させてもらい、企業の理解を得て練習に行かせてもらうなどして、大会に挑戦している生徒もいる。 知的に高い生徒は、特別支援学校の同窓会事務局主催で青年学級を年３回～４回やってるが、友達同士で映画を見に行くとか、余暇の楽しみ方が定着しつつある。 団体さんの活動についても、一つの余暇の過ごし方として障害当事者である本人たちに知ってもらえるよいと思った。今後２、３年間くらいは、「知る」という活動を繰り返した上で、本人たちが活動を選択していけるようになるとよい。そうした中で、本人たちからの希望が出てくる可能性もあると思う。 秋田県教育委員会が進めている事業も含めて、「こういう活動があるよ」「こういう団体があの市町村にはいっぱいあって、こういう活動やってるよ」という、よい機会にコンファレンスがなるのではないかと感じた。 ５　総括（委員長） 冒頭で古谷課長から話が合った中央教育審議会で諮問がなされたことについて、障害のある方の生涯学習もその枠組の中に入って、大きな追い風になっているのだろうと強く感じた。 社会資源は、たくさんある。秋田にもたくさんあるが、社会資源が障害のある方々とうまくつながっているのかどうかをもう一度見直していく必要があると感じた。その社会資源が、障害のある方々の学びに生きるためには、インターフェース、接点を付けてくれるような人材や機関などの後押しが必要である。そうした機能をこの会議だったり、12月のコンファレンスの方で果たしていけるとよい。 最後だが、今まで障害のある方々の処遇については、「働く」とか「暮らす」ということが重点であった。それは当然のことだが、少しずつ「働く」「暮らす」に「楽しむ」とか、就労系の人たちもいるので、就職して終わりじゃなくて就職後のキャリアアップというようなことも生涯学習の視点としてはあってもよい。 そうした意味では、障害者の生涯学習というと、余暇の方に集約しがちだが、「就職したけど、資格を取って、もうちょっと違う仕事をしてみたい」とか、そうした考えの方々も支えていくような生涯学習のあり方もあってよい。今日は、皆さんの貴重な御意見をいろいろと伺うことができてよかった。 12月のコンファレンスについて、事務局に難儀を掛けるが、どうぞよろしく。 ６　その他（諸連絡） ・生涯学習課 生涯学習・学芸振興チーム ７　閉会